

1/12  
早稲

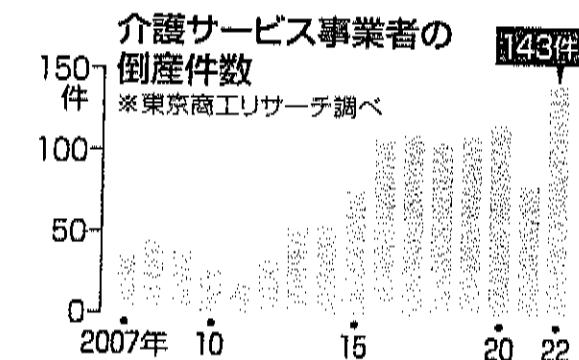
## 介護事業倒産 最多143件

22年 コロナ禍と物価高影響

東京商工リサーチは十一日、二〇二二年の介護サービス事業者の倒産が全国で過去最多の百四十二件になつたと発表した。負債額一千万円以上の件数を集計。

新型コロナウイルス禍での利用控えや物価高騰が影響した。これまで最多の二〇一年を二十五件に回った。二年の負債総額も「百三十億三千八百万円で最大となつた。

東京商工リサーチは、必要なサービスが受けられない「介護難民」が増える恐れを指摘。物価高が事業運



事業がさらに広がる可能性があると分析した。  
二年の百四十二件のうちコロナ関連は六十三件。前年の六倍弱に急増した。

感染対策費の負担継続も響いたとみられる。

都道府県別に見ると、神奈川が二十件で最多。大阪十七件、東京十五件と続いた。従業員数別では十人未満が百十七件だった。

介護事業者の倒産は、コロナ禍が始まった二〇年は百十八件。二一年は国の資金繰り支援策などにより八十一件に減っていた。二二年は支援縮小や物価高、入手不足も影響した。

介護保険を使ったサービスの利用料は国が決めている。光熱費や物の価格が値上がりしても、価格転嫁が難しい。

業種別の倒産件数ではデイサービスなどの「通所・短期入所介護」が六十九件、「訪問介護」が五十件と多かった。